

令和元年6月24日現在

機関番号：34440

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02427

研究課題名(和文) 日本支配下の戦時上海及びその周辺地域における日中漫画家交渉の基礎的研究

研究課題名(英文) A Preliminary Study of Interactions between Japanese and Chinese Cartoonists in the Wartime Shanghai and the Surrounding Areas under Japanese Rule

研究代表者

趙 夢雲 (Zhao, Mengyun)

東大阪大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：80390152

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は漫画家可東みの助を研究上の座標軸として設定し、戦時上海における日中漫画家の交渉実態の解明、更に可東みの助の漫画をもって上海邦人社会の考察を試みるものである。研究成果としては、可東みの助の上海時代の漫画作品の収集及びそれらの作品リストの作成、可東みの助の人物像とその作品に関する論文の発表(本研究課題の周辺領域及び今後の研究課題へ発展するものを含む)、本研究の総合的完成として単行本『上海非常時 可東己之助漫画解読』の上梓。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は漫画家可東みの助が戦時上海における活動の確認と基礎資料の構築をはじめ、文化・文芸とその周辺領域の複合研究も意識し、戦時中、日中漫画家の接触と摩擦、日本占領下の上海における日本人の文化・文芸空間に関する実態の解明を試みたものである。それは近年注目されている外地文化・文芸研究の空白を埋め、更に植民地文化研究全体の進展に寄与することにもなる。

研究成果の概要(英文)：This is a study of wartime Shanghai with a focus on the Japanese cartoonist Minosuke Kato. It attempts to reach two goals: to explore the communicative status between Japanese and Chinese cartoonists in wartime Shanghai and to investigate the Japanese community in Shanghai during that period. The research results will be as follows: 1) Investigate, collect, and catalog the cartoons and other works produced by Minosuke Kato; 2) publish research papers on Minosuke Kato and his works, including papers in the areas related to this topic and those in the areas to be developed in the future; and 3) publish the book Shanghai in Emergency Time as the comprehensive accomplishment of this study.

研究分野：日本近代文学 日中関係

キーワード：可東みの助 漫画 上海 「大陸新報」 「改造日報」 在留日本人 引揚げ

1. 研究開始当初の背景

本研究の研究代表者趙は2007年4月から三年間継続した科学研究費助成事業(基盤研究B)「戦時上海の文芸文化と邦字新聞『大陸新報』に関する多角的研究」(研究代表者・大橋毅彦)に研究分担者として参加した。「大陸新報」は日本統治下の上海で発行された邦字新聞で、上海及びその周辺の華中地域で日本人の文化活動に関する情報が多く掲載されていた。趙は他の研究分担者とともに「大陸新報」の文芸文化関連記事のデータベース化に従事し、その共同研究の成果は『新聞に見る戦時上海の文化 「大陸新報」記事細目』(ゆまに書房/2012年)として出版されている。さらに趙はその基礎研究の応用課題として、同紙記事に見られていた現地邦人による漫画活動の調査を担当し、独自に関連記事の資料収集と記事内容の分析を進めてきた。その結果、1940年春頃上海に渡った漫画家可東みの助の活動及び彼を中心とした「大陸漫画グループ」「上海漫画家クラブ」の状況の一端を明らかにし、国内でも所蔵が確認されていない可東みの助の『上海漫態 漫画漫話集』を発掘して、口頭発表「大陸新報時代の可東みの助」(植民地文化学会2008年総会研究発表会/2008年7月13日)を行い、その口頭発表を基礎に論文「可東みの助と戦時上海 『大陸新報』時代の漫画・漫話を中心に」(『中国文化研究』第25号/2009年3月)及び文献目録「『大陸新報』に掲載された可東みの助作品一覧」(『中国文化研究』第26号/2010年3月)を発表した。こうした作業を通じて、可東みの助ら現地漫画家及び現地と関わりを持った日本国内漫画家たちの具体的な創作活動の実態が示されたばかりではなく、上海及びその周辺地域に存在した漫画家団体の状況、1941年に制作されたアジア初の長篇アニメーション『鉄扇公主』(日本公開時吹替版題名『西遊記・鉄扇公主の巻』)の作者万籟鳴ら中国人漫画家や他の国々の漫画家と日本人漫画家との関係の一端が見えてきて、上海を中心とする華中各地の日本人漫画家による漫画活動は相当な規模と水準を持ち、更には占領地文化政策に対する現地文化人の反応から、日本の文化統治政策と現地事情の間で複雑な様相を繰り広げていたことが浮かびあがってきた。また、可東みの助は国策団体「中日文化協会」の美術委員をも務め、趙が研究分担者として加わった科学研究費(基盤研究B)「中日文化協会上海分会と関連文学者・文化人に関する基礎的・総合的研究」(2013年4月～2016年3月)の作業にもつながっていた。

2. 研究の目的

上述したように、可東みの助は1940年に上海に渡り、その作品はまもなく「大陸新報」が彼の「来滬」を機に新たに設けた「日曜漫画頁」に登場する。以降、生活と風俗を活写する作品を「大陸新報」とその華字紙の「新申報」に矢継ぎ早に発表し、渡航して半年でその数は百点(編)を超え、目を見張る健筆ぶりであった。内容も風俗漫画・時事漫画をはじめ、見聞記、紀行、従軍記、随筆などバラエティーに富み、そのため、可東みの助は「在上海の漫画家として第一人者」(『みの助の思い出』)と称されたのである。戦争中の「漫画家の多くは、戦争協力のためのいわゆる翼賛漫画を描いて軍部に協力した。進んで協力した者と、不本意ながら協力せざるを得なかった者がある」(もりたなるお『芸術と戦争 従軍作家・画家たちの戦中と戦後』)と指摘されているが、可東みの助の場合は、民衆の心を掴めるか否かが戦争勝敗のカギで、漫画はそのために欠かせない重要な手段だと認識し、積極的に「宣撫工作」に取り組んでいた。しかし、彼は対中工作が一致しないことに強い不満を抱き、それを漫画として取り上げて痛烈に皮肉ならば画材として面白かったが、発表出来ないことを残念がっていた。「大陸新報」の紙上において上海在住のヨーロッパ人漫画家と「漫画放談」したり、中心的な役割を果たして「上海漫画家クラブ」の立ち上げに関わったりするのも、当局の意向に沿ったものだった。いわば可東みの助は、

占領地文化政策を具現する立役者の一人であったといえるのである。

そこで本研究は可東みの助という漫画家を研究上の座標軸として据え、上記調査によって得られた研究基盤をさらに発展させ、汪兆銘政権勢力下の上海及び華中各地で展開された占領地文化政策、日本人による文化・文芸活動の実態の一側面を解明すると同時に、可東みの助の動向を確認することを手掛かりに、上海などに存在した邦人文化・文芸関係者、文芸団体の活動及びそれらの文芸関係者、文芸団体と各国文化人との交流状況の追跡などを研究目標として設定した。

本研究がこうした課題を設定したのは、周辺領域の複合研究を意識し、可東みの助個人の文化的文筆活動の確認や、資料整備・事実確認を行うことは、必然的に日中文化人の交渉或いは摩擦・衝突の考察へと発展する可能性を予見したためである。戦中、上海及びその周辺地域における日本人の文化・文芸空間の実態解明は、文化面の日本統治にかかわる複雑な問題を浮き彫りにし、外地文化・文芸研究の空白の一つを埋めることになり、植民地文化研究全体の進展に寄与するものであると認識している。

3. 研究の方法

上述したように、本研究は可東みの助という漫画家を研究上の座標軸として設定したため、以前作成した「『大陸新報』に掲載された可東みの助作品一覧」をベースに、まず上海時代の可東みの助の足跡の確認から着手し、戦前・戦中の日本語図書を集中的に所蔵している、日本国内に所蔵が確認されていない資料も多数存在している上海図書館とその附属施設の徐家匯蔵書楼、上海档案馆及び北京の国家図書館での可東みの助関連の資料調査・収集を重点的に実施し、入手した資料の分析・整理を進め、研究課題の掘下げを試みた。さらに必要に応じて台北の国史館、国民党党史館、国立台湾図書館、広島まんが図書館及び内外の大学図書館での調査も計画に入れた。調査の進展で基礎データの充実が見られ、その上で、可東みの助の戦後の留用先だった第三方面軍改造日報館をはじめ、上海に於ける戦後国民政府の対日宣伝機関が発行した一連の邦文・華文刊行物など、周辺関連領域の資料の収集をも心がけて、研究の視座を広げることを意識し、考察の深化をはかった。

資料調査で判明した事実や情報を所属学会の研究会で報告し、論文にまとめて所属機関の研究紀要に発表した。そして研究の最終年度では、研究の総合的完成を目指し、研究成果の集約を単行本の形で公開した。

4. 研究成果

(1) 研究基盤の構築

本研究課題は、当該分野の資料整備は資料の散逸が甚だしいこともあって、皆無と言っても過言ではないほど進められていなかった。そこでまずは研究基盤の構築に重点を置いた。国内外の所蔵機関での資料調査を精査した結果、未知だった新資料が多数発掘できたと同時に、旧資料の記載ミスも複数発覚した。例えば上海科学技術出版社刊十巻からなる「老上海漫画叢書」の『外僑看景』に収録された漫画「乞食」は、「佚名(作者不明)」と表記しているが、広島市まんが図書館で確認した「上海生活風俗漫画展作品集」と照合すれば、それは「外僑」(外国籍居留民)漫画家の作品ではなく、可東みの助とも交渉のあった、当時活躍していた中国の漫画家万籟鳴によるものであったと判明した。

(2) 上海時代の可東みの助とその交友関係及び戦時上海における漫画家組織「上海漫画家クラブ」の実態解明

「大陸新報」所載可東みの助の作品、評論及び関連記事の調査から着手し、その内容を分析し、

漫画の読み解きを試みた。その結果、『上海漫態』の表紙に刷られている万籟鳴による可東みの助の横顔の切り絵は、大陸新報社主催の漫画映画対談会の席上で万籟鳴が作成したものと分かり、また万籟鳴は「上海漫画家クラブ」に名を連ねたものの、その発会式も欠席し、日本側と意図的に距離を置く姿勢を明らかにした。実際、対談会の二年後、当局にマークされたことを察知した万籟鳴は、密かに家族を連れて日本支配下の上海を脱出した。一方、可東みの助は「上海漫画家クラブ」の立ち上げとその後の活動に深く関わったが、上海漫画家クラブが主催した「上海生活風俗漫画展」のタイトルからも分かるように、内外の漫画家の出品した作品はいずれも「生活風俗」をテーマにし、日本占領当局側が期待した時局宣伝には程遠い。その「時局認識の無さ」は槍玉に挙げられ、みの助も非難を受け、「外人漫画家」は「全く価値なき風俗漫画家にすぎず」、「大東亜建設の理想を顕現すべき情熱ある漫画を期待するなどは不可能である」(上海市政研究会編『上海の文化』)と言わざるを得なかった。上述した調査と考察は、「可東己之助其人其事」「戦時上海素描」「戦時上海日僑社会」「戦後上海日僑社会」の四章からなる拙著『上海非常時 可東己之助漫画解説』(上海三聯書店 / 2019年6月刊)にまとめた。

(3) 新たな研究課題への発展

漫画家可東みの助の戦後の足跡を辿った段階で、彼の留用先の改造日報社をはじめ、その後身ともいえる改造出版社、亜東協会など国民政府の対日宣伝機関に対する関心が高まった。複数の対日宣伝機関はなぜ上海に設置されたか、機関の改組が幾度も行われたのはどんな事情によるものか、共産党の地下組織はどのように当局の対日宣伝機関に影響をあたえたか、不明な部分が多々あった。そこで本研究の資料調査のついでに予備調査を行い、先行研究が皆無に等しい状況を確認したと同時に、資料の残存状況をある程度を把握し、戦後上海における国民政府の対日宣伝機関の活動と引揚げを待つ邦人コミュニティの反応という新しい研究課題への発展の手がかりを得ることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

趙夢雲、苦悶と期待が交錯するなか 「留用者」可東みの助の戦後、中国文化研究、査読無、32号、2016、77-98

趙夢雲、新聞報道から見る「蔵本事件」 邦字紙の記事を中心に、ASIA - 社会・経済・文化 -、査読無、3号、2017、33-81

趙夢雲、戦後上海に於ける国民政府対日宣伝定期刊行物目録一覧(前編) 改造日報館・改造出版社関連、ASIA - 社会・経済・文化 -、査読無、4号、2018、54-129

趙夢雲、上海：非常時の日常(一) 可東みの助の漫画を読み解く、中国文化研究、査読無、34号、2018、27-52

趙夢雲、戦後上海に於ける国民政府対日宣伝定期刊行物目録一覧(後編) 改造出版社・亜東協会・亞洲世紀社関連、ASIA - 社会・経済・文化 -、査読無、5号、2019、45-98

〔学会発表〕(計1件)

趙夢雲、新聞記事から見る「蔵本事件」、植民地文化学会 2016 年総会研究発表会、2016 年 7 月 10 日、江東区東大島文化センター

〔図書〕(計3件)

高網博文他編(趙夢雲) 研文出版、戦時上海のメディア 文化的ポリティクスの視座から、2016、367(89-109)

戦前期中国関係雑誌細目集覧刊行会編(趙夢雲) 三人社 戦前期中国関係雑誌細目集覧
2018、463 (82-90,231-238)

趙夢雲、上海三聯書店、上海非常時 可東己之助漫画解讀、2019、220

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

趙 夢雲 (ZHAO, Mengyun)

東大阪大学・教授

研究者番号：80390152

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。